

委員からの意見・質問

議題(1)関連

第 41 回こども・子育て会議に係る意見書

柳瀬幸子 委員

1. 津市こども計画に係る意見聴取の結果について

沢山の意見をいただき、大変参考になりました。津市の課題は山積していると感じました。今回のようなアンケートのみではなく、当事者の生の声を政策担当者が聞きに行くことも必要だと思いました。

回答

当事者の「声」を踏まえて施策を推進していくに当たっては、アンケート調査による意見聴取も実際の「声」を伺う一つの方法であるものの、実際に現場に赴き、当事者の「声」を聴く取組は重要であると考えております。

今後、(仮称)津市こども計画を策定し、実行していく中で定期的に行う取組についても考えてまいります。

委員からの意見・質問

議題(2)関連

第 41 回こども・子育て会議に係る意見書

柳瀬幸子 委員

2. 津市こども計画の構成案について

現在も、行政、教育、専門職団体、NPO や子育て支援団体、企業、地域などが、様々な面で、こども・子育て支援に関わっていると思います。

しかし、取り組みがまだまだ不十分なこと、当事者に周知されていないこと、これからの時代には是非必要なことなど・・・早急に取り組んでいかなければいけないと考えます。津市の子どもの数は、どんどん減っています。

回答

津市では、令和 4 年 5 月、津市人口減少対策会議を設置し、国におけるこども・子育て政策の動向を注視するとともに、国が取り組まない領域における出生率や都市の魅力の向上に向けた本市独自の新たな施策について協議・検討を行っています。この会議からこどもと妊産婦医療費の助成拡大、1 か月児健康診査の無料化、保育士・幼稚園教諭等就労開始応援事業などを事業化し実施しています。

委員のご意見の中で、「当事者に周知されていない」ことについては、今回のアンケート調査の中でも「子育ての取組は情報が分かりにくい。」(P14) とのご意見もありますので情報発信のあり方を検討してまいります。また、今後必要とされる取組についても当事者の意見を聴きながら検討してまいります。

第 3 章：津市の第 2 期事業計画の評価として、今回の意見聴取の結果と合わせて取りまとめていただき、市民からの評価としてはどうだったのかを、資料として提出していただきたいと思います。

回答

第 1 期計画の事業評価については、第 2 期基本計画における第 3 章において (P46) 実施しておりますが、事業担当部署において評価を行い、それを基に算出した平均点を各基本目標の評価とし、課題についても担当部署から聴取を行い実施しました。

次回会議におきまして、第 2 期計画の評価をお示ししたいと考えていますが、市民からの評価については、今回のこども・若者、子育て当事者の意見を聴くために行ったアンケート調査の結果こそが実際のニーズであり、評価であると考えますので、当該意見を踏まえるとともに、担当部署と共有することでこども計画へ反映していきます。

第4章：次期計画の施策を、行政のみが考えるのではなく、こども、若者、これから妊娠を考えていきたい人、妊娠中・子育て中の人などを集めたワークショップなどを開催し、当事者が意見や課題を言い、一緒に課題解決の方法や取り組みを考え、それが津市で実行されたか、成果があがったのかを、しっかりと検証していくシステムを作っていくべきだと思います。

回答

今般のこども計画策定において、こども・若者、子育て当事者の意見を聴くだけでなく、当事者の意見を踏まえながら計画を実行していく方法について、(仮称)津市こども計画の第8章「計画の推進について」の中で整理してまいります。

第5章：ライフステージを通じた施策のためには、行政、医療、保健、福祉、教育、NPO、企業、地域、ボランティアなど、様々な分野の人が連携して子どもや子育て施策に関わっていく必要があります。地域で顔の見える関係やお互いに助け合える関係が必要だと思います。子ども・若者・親などに関わる周囲がどのように関係性を作っていくかが大きな課題だと考えます。

回答

現行の子ども・子育て支援事業計画において、基本目標4として「市民・地域・企業が一つになって子育て・子育てしやすい環境をつくります」としています。地域を核としたこども・若者、子育て当事者や地域で支えたいと活動している人の交流や連携は、安心して地域で暮らし子育てするために必要なことだと考えておりますので、(仮称)津市こども計画における基本的な方針として「様々な人が関わり、地域でこども・若者、子育て当事者を支えるまちをめざします」を設定しました。

津市では、4月に新たに全ての妊産婦、子育て世帯、こどもへの包括的な相談支援を行う「津市こども家庭センター」を設置し、当センターにおいては、これまでの「子育て世代包括支援センター」を「こども子育て支援拠点」として運用していくこととなりました。市内15か所の「こども子育て支援拠点」を中心に地域で活動されている「子育て広場」や「こども食堂」などの関係者の皆様とも連携した取組を進めていきたいと考えております。